

特定非営利活動法人やっぺす  
第12期（2022年度）事業計画書

I. 運営方針

第12期（2022年度）は、前年度同様「女性活躍推進」「子育て支援」「復興支援活動」の3つの分野で事業を展開する。

「女性活躍推進」事業では、石巻市と東松島市にて女性の人材育成セミナーを、これまで養成した「コーチング」「メンタルヘルス」「レジリエンス」の資格者を講師として実施する。

また、前年度から宮城県の委託を受けて開始した、女性相談事業「つながりサポート型支援事業」は本年度も委託を受けて石巻地域にて実施。相談業務から見てきたニーズに対して、これまで認可を受け実施してきた「無料職業紹介所」、「居住支援法人」、シェルター機能付き貸しハウス「やっぺすハウス」の運営を通して課題解決へアプローチしていく。

「子育て支援」事業では、やっぺす！ママこども食堂の開催、子育て相談会の開催を継続し、地域の子育て世代の支援を実施する。コロナ禍で少人数限定、お弁当配布と形を変え実施していたが、本年度よりコロナ対策を徹底しつつ、作った料理を親子で囲んで食べる形での開催も増やしていく。昨年度から石巻市の事業委託を受け開始した「子育て世代包括支援センターいっしょ issyo えきまえ」の運営と、「産後ケア事業」も継続して実施する。昨今のコロナ禍の子育て世帯への影響は大きく、貧困やDV等の相談件数は増加する一方であり、親子が各支援機関や公的サービスを受けられる等、安心安全な状況を確保できるまでサポートしていく。

「復興支援活動」では、震災以降実施しているコミュニティ形成支援事業を継続する。これまで復興住宅を中心に孤立・孤独死の防止を目的に、住民参画型のサロンやイベントを開催してきた。普段から外出機会が少ない復興住宅の住民や高齢者は、運動機能の低下や認知症等の進行が危惧されるため、外出機会の創出と交流の活性化を目的とし、新たに「住民主体で企画する遠足バスツアー事業」を1つの柱として実施し、住民の参画をより強化し持続可能性を高める。

これまで実施してきた復興コーディネート事業、グッズ販売やアマネセール事業は、コロナ禍の影響もあり、年々収益が減少しているため、販路開拓やHPやSNSのブラッシュアップ等見直しを行い、収益性を向上させ、団体の持続可能性を高める。

震災から11年が経ち、復興予算の減少、支援の減少は避けられない。また、未だ収束が見えない新型コロナウイルスの影響により、収益事業の柱であった「復興コーディネート事業」の受入れの中止は今年度も同様の状況が予測される。女性や子ども達を取り巻く地域課題は未だに多く、少ない資源で活動の効果を最大化すること、財政基盤を強化し地域課題にアプローチし続けられる持続可能性の向上が喫緊の課題である。「私らしく生きるが叶えら

れるまち」を目指し、スタッフのエンパワーメントによる効果の最大化、財政基盤の強化を掲げ、スタッフ一丸となり現状打破に尽力していく

## II. 事業計画

(別紙2)

## III. 組織の運営に関する事項

### 1. 総会の開催 (2021年5月)

2020年度事業報告について

### 2. 理事会の開催 (2021年5月)

2021年度事業計画について

### 3. その他会議および研修について

管理会計会議 (事務局スタッフ、担当税理士) (月1回)

スタッフ全体ミーティング (スタッフ全員) (月1回)

事務局会議 (代表理事、副代表理事、事務局スタッフ) (月1回以上)

## IV. 事務局体制について

(方針1): 震災から10年の経過と復興財源の減少を見越した、団体と活動の持続可能性を高めるため経営の効率化を図る。

(目標)

1. 賛助会員募集、寄付者募集、収益事業の強化により、収入における寄付収入、委託料収入を含めた事業収益の割合を60%以上にする。

2. 賛助会員の継続会員と新規会員あわせて200人以上集める。

3. 広報の効率化等を図り、目標の達成にコミットする。

(方針2): スタッフのエンパワーメントを軸とした、活動の効果の最大化と業務の効率化を目指し、地域の女性活躍推進モデルとして定着させる。

(目標)

1. スキルアップのための外部研修等への参加推進。
2. 各事業担当がプロジェクトマネジメントを活用し、担当者間・事務局スタッフとの情報共有等の効率化を図り、活動成果の最大化、事業運営の効率化を図る。